

協同

〔特集〕 協同組合間協同を進めよう
「虹の仲間づくりカレッジ」の取り組み

2021
Dec
KYODO 12



兵庫の農業人
Hyogo-nougyoujin

タッグ!兵庫の農業人

持続可能な地域農業へ向けて、
地域全体で農業戦略を図る

Farmer × JA staff
岡田 浩樹さん
井口 尚洋さん
詳細は
裏表紙へ

兵庫の農業人

生産者の皆さんとタッグを組んだ
多様な営農活動を紹介します。

タッグの様子は動画でも配信中!

▶ YouTubeで 兵庫の農業・農協発信ch 検索



今月は JAハリマ

持続可能な地域農業へ向けて、 地域全体で農業戦略を図る

収穫前の黒大豆の生育状況を確認する岡田さん(左)と井口さん



生産者

水稲・黒大豆
生産者

岡田 浩樹さん

今後も農地の請負や受託作業を続けていくとともに、新しいことにも積極的に挑戦し、地域農業の活力を大きくするような農業人になります!

JA職員

JAハリマ 経済部
一宮営農経済センター センター長
井口 尚洋さん

地域農業の10年後を考え、JAが持続可能な農業の先導者になれるよう職員一丸となって取り組んでいきます!また、JAと地域全体がつながる橋渡し役になれるように努めます!



JAハリマは、地域の自然条件を生かして、ブランド米「伊和の里」をはじめとする水稲や黒大豆などが盛んに栽培されている。しかし、近年は地区内の高齢化が進み、65歳以上が地域人口の40%以上を占め、農業従事者が年々減少するとともに、耕作放棄地が増加している。

宍粟市一宮町伊和の岡田浩樹さんは、地域の生産者が耕作できなくなった農地を守り、地域農業に活力をつけたいという思いから、家業を受け継ぎ、3年前に専業農家となった。所有している農地に加え、耕作が困難となった農地を請け負い、水稲6haをはじめ、WCS※1ha、黒大豆1haを家族とともに栽培している。

岡田さんが今後の農業経営を行ううえで、JAハリマ一宮営農経済センターの井口尚洋さんの存在が大きい。井口さんは、購買事業を担当するとともに、営農指導員として水稲や黒大豆の栽培方法の助言や経営計画の相談業務を行う。今年度は、岡田さんが兵庫県が認証する『ひょうご安心ブランド』を取得し、特別栽培米の生産に最も力を入れていることもあり、販売先の確保と販

売促進など経営計画を実践するにあたり、積極的にアドバイスをを行っている。井口さんは「多様な生産者のニーズに応じていけるよう、JAだけでなく、行政や関係組織と連携して、地域全体で取り組んでいきたい」と話す。

JAハリマは、持続可能な地域農業を構築するために、JAと生産者が一体となって生産・販売戦略を考え、さらに地域の関係組織と共有することで、新規就農者の育成や生産拡大に取り組む。

※ホールクローブサイレージ、稲の穂と茎葉を同時に刈り取りロール状に成型したものをフィルムで包み込み乳酸発酵させた牛の飼料

持続可能な地域農業へ向けた取り組み

JAと生産者が一体となって生産・販売戦略を練るとともに、行政や農事組合法人、営農組合、畜産農家、担い手農家、販売店など**地域組織と共有し、持続可能な地域農業**の構築を目指している。